



ACROS Fukuoka
19 アクロス福岡
 設計 / 日本設計, 竹中工務店
 中央区天神1-1-1
 1995年

旧福岡県庁跡地に建設された、商業施設や音楽ホール、会議場、オフィスなどが入っている複合施設。アメリカで活躍する著名な建築家・デザイナー、エミリオ・アンバースの構想を基に、隣接する天神中央公園の緑との連続性を重視した。そのコンセプトに基づく形で、ビルのパブリックスペースは景観に配慮し階段状の屋上庭(ステップガーデン)として整備されている。



Former Prefectural Hall's Official Guest Center
20 旧福岡県公会堂貴賓館

設計 / 三條栄三郎
 中央区西中洲6-29
 1910年

国重要文化財

Fukuoka City Literary Museum (Akarenga Hall)
21 福岡市文学館(赤煉瓦文化館)

設計 / 辰野片岡建築事務所
 中央区天神1-15-30
 1909年

国重要文化財

東京駅の設計者として有名な辰野金吾と、工科大学校の同期生、片岡安の事務所による明治末期の煉瓦造りの洋館。現在は福岡市の文化施設で、「赤煉瓦館」と呼ばれ市民に親しまれている。19世紀末のヨーロッパの流行だったクイーンアン様式とアールヌーヴォーの影響を受けている。

Kawasho (Restaurant)

23 河庄
 設計 / 吉村順三設計事務所
 中央区西中洲5-13
 1959年



The Prism of Wind / Susumu Shingu
22 風のプリズム
 作者 / 新宮晋
 中央区西中洲(水上公園)
 1983年

1983年から進められた「彫刻のあるまちづくり」プロジェクトの第1号作品。「大陸からの風を受けて回転し、光を拡散する」というテーマで制作された。





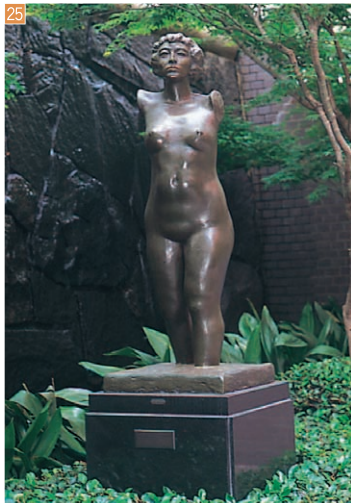
Fukuoka Bank Head Office
24 福岡銀行本店
 設計/黒川紀章建築都市設計事務所
 中央区天神2-13-1
 1975年

福岡銀行本店は1階部分を一般に開放したオープンスペースとし、広く大きな吹き抜け空間を設けたデザインが特色。当時、黒川紀章は建築と都市の関係をデザインコンセプトの大きな柱として強く掲げていた。これ以降の現代アトリウム建築の進化につながる作品である。アトリウムの中には、フランスでも活躍した彫刻家・高田博厚の**25 Le Ciel**などのアート作品が展示されているほか、緑や休憩のスペースなどが配置されており、都会の中のアオアシ的な存在となっている。



Tenjin Building
26 天神ビル
 設計/竹中工務店
 中央区天神2-12-1
 1960年

竹中工務店設計部の岩本博行(1966年、国立劇場の設計でも有名)による設計。竣工当時は個性的なデザイン窓、ステンレスのサッシなどのディテールが斬新でモダンな建物として話題になった。現在も多くのテナントが入っており、天神界隈を代表するビルのひとつ。



Le Ciel / Hiroatsu Takata
25 Le Ciel
 作者/高田博厚
 中央区天神2-13-1(福岡銀行本店)
 1989(1983)年



Les Amoureux / Ossip Zadkine
27 恋人たち
 作者/オシップ・ザツキン
 中央区天神2丁目
 1991(1955)年

ザツキンはロシア出身、その後パリで活躍。キュビズムやアフリカ彫刻の影響を受けながら独自のスタイルを確立した彫刻家。何より面白いのは天神という九州有数の雑踏のただ中に黄金に輝く彫刻が突然立っている事。語り合う恋人たちのイメージもこの場所にふさわしい。



平和の門
 Tenjin-nishi Intersection Promenade/
 Gate of Peace, etc. / Shin Matsunaga

28 天神西交差点広場 / 平和の門ほか

作者/松永真
 中央区大名2丁目(西鉄グランドホテル前)
 1998年

歩道広場には、シンプルかつ斬新なデザインを得意とするデザイナー・松永真が“楽しくて対話できるもの”というコンセプトで制作した作品が並ぶ。カエルやキリンをモチーフにした親しみ易い存在だ。

Nishitetsu Grand Hotel
29 西鉄グランドホテル
 設計/浦辺建築事務所(現 浦辺設計)
 中央区大名2-6-60
 1969年

まだ福岡市内に路面電車が走っていた1969年に登場した、福岡の高級ホテルの草分け的な存在。「倉敷アイビースクエア」で知られる浦辺鎮太郎による流麗な設計が光る。浦辺氏逝去後、同事務所により当初のイメージを残した改修が行われた。



Untitled / Keith Haring
31 無題
 作者/キース・ヘリング
 中央区舞鶴2-5-1(あいれふ前)
 1994(1985)年

キース・ヘリングは若くしてAIDSで亡くなったニューヨークのストリートペインター。彼は地下鉄の落書きで大きな注目を集めた後、彼の犬のキャラクターを元にした巨大な立体作品を何点か制作した。作品は彼の平面作品を切り抜いて垂直に立てただけ、とも言えるシンプルな形状。その直截なイメージと色彩はユーモラスでありながら、どこか悲しみが漂う。



大きな一歩
 鶴が向こうを睨む
 見晴し台
 おかえり



Three Hats / Yayoi Kusama
30 三つの帽子
 作者/草間彌生
 中央区舞鶴2-5-1(あいれふ前)
 1996年

作者/キース・ヘリング
 中央区舞鶴2-5-1(あいれふ前)
 1994(1985)年

キース・ヘリングは若くしてAIDSで亡くなったニューヨークのストリートペインター。彼は地下鉄の落書きで大きな注目を集めた後、彼の犬のキャラクターを元にした巨大な立体作品を何点か制作した。作品は彼の平面作品を切り抜いて垂直に立てただけ、とも言えるシンプルな形状。その直截なイメージと色彩はユーモラスでありながら、どこか悲しみが漂う。

32



Aratsu-ohashi Bridge

32 荒津大橋

設計 / 日本構造橋梁研究所
中央区那の津～荒津
1988年

須崎埠頭と西公園荒津を結ぶ福岡都市高速道路に架かる橋長345mの斜張橋。この橋のためには日本でも有数の漁獲高を誇る福岡鮮魚市場や造船所が立地しているため、大型船の航行を可能にする橋高39mの高さを確保している。そのため地上からの眺めは、直線の斜張橋から連続してカーブする高速道路と相まってダイナミックな景観を形成している。博多湾と市街地が一度に見渡せる眺望が素晴らしい、車で市街観光や夜景ドライブの名所にもなっている。

34



Fukuoka City Agricultural Co-operatives Head Office

34 福岡市農業協同組合本店

改修設計 / 青木茂建築工房
中央区天神4-9-8
2005(改)年

1968年建設された元のビルを、2005年に建物の躯体を残し耐震補強とともに内外装の改修を実施している。いわゆる“リファイン建築”で知られる青木茂の設計である。

33



Fukuoka Prefectural Museum of Art

33 福岡県立美術館

設計 / 佐藤武夫設計事務所(現 佐藤総合計画)
中央区天神5-2-1
1964年

福岡県立美術館は早稲田大学大隈講堂の設計者、佐藤武夫が設計。1964年に美術館と図書館の機能を持つ福岡県文化会館として開館、その後1985年に美術館としてリニューアルされた。大隈講堂と同様に塔状の部分を持つ。

**“ヒューマンライン”七隈線**

福岡市の都心と南西部地域を結ぶ福岡市営地下鉄七隈線。日本で4番目の鉄輪式リニアモーターの地下鉄である。“ヒューマンライン”(人にやさしく、地域に根ざした公共交通機関)というコンセプトで建設されたホームや各駅は、視覚障害者にも配慮した音のサインの採用やユニバーサルデザイン、駅舎や車両、ビジュアルなどの総合的なデザインが高く評価され、福岡市都市景観賞、グッドデザイン賞等を受賞している。各駅の出入口はガラスが使用され、自然光を取り入れることで開放感が強調されている。

駅構内の内装はイメージカラーの清潔感にあふれたグリーンを効果的に使用。券売機、乗り換えや出口番号のサインも分かり易い。

ホームと車両の隙間は狭く、段差も5ミリ以下、車いすやベビーカーでの乗車も無理なく安全に行える。更にトイレは従来の車いすや高齢者用の設備に加え、介助用のベッドまで設置。

また各駅には独自にデザインされたシンボルマークが付いている。その土地の特色や名前に由来したもので、違いを楽しみながら沿線を巡ってみてはいかがでしょうか。



設計監修 / 福岡市地下鉄デザイン委員会

35



Fukuoka City Subway Nanakuma Line Tenjin-minami Sta.

35 福岡市営地下鉄七隈線 天神南駅

設計 / 葉デザイン事務所
中央区天神1丁目他
2005年

平成17年2月に開通した地下鉄七隈線の天神南駅は、福岡の都心と南西部地域を結ぶ路線の都心終点の駅。葉祥栄ならではのガラス素材による開放的な3次元構成を見せている。

写真撮影 井上 啓

C-WEDGE

36 C-WEDGE

設計 / 小林克弘+デザインスタジオ
中央区高砂1-24-46
1991年

36

